

2017 Japan National Team Report ” サポーター”



報告者氏名	服部唯苗
大会名	ヨーロッパ選手権
開催地	ブルガリア・ブルガス
大会期間	7月30日~8月5日

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について

このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい

開催地域の様子	滞在期間中、一度も雨が降らず、日差しがきつくて気温が高かったが、青空が気持ちよかった。 ブルガスの街は空港から車で20分と近く、大きすぎず、移動にも不自由はなかった。 物価が安かったので、美味しい食事を値段を気にせず味わうことができ楽しかった。
宿泊場所	サポーターは公式宿舎から一本道を歩いて5分のところにアパートを借りた。 洗濯機、洗濯物干し場、キッチン、冷蔵庫、無料WiFiなど生活設備が充実していたので、選手サポートに適していたと思う。毎朝選手とコーチが散歩ついでに顔を出してくれるなど、徒歩5分の距離はチーム内のコミュニケーションには何の問題もなかった。むしろ積極的な選手サポートが出来たので、別宿のアパートは正解だったと思う。
大会のサポーターへの対応は	公式日程はバースに入れなかったが、コーチミーティングやプロテストの受付などは、バース外のサポーターが待機できる場所で行ってくれたので、レースの状況がわからないということはなかった。サポーターにもフレンドリーで親切だった。
選手たちのコンディションいつもとどうでしたか？	到着直後に体調を崩した選手がいたが、長引くことなく回復したので良かった。 公式ホテルの食事が良かったので、滞在期間中に食べ物に苦労している様子はなかった。 サポーターがアパートで作るおにぎりは、毎日の出艇前や海上での捕食として喜んで食べてくれた。
サポーターとして気をつけたことは？	海上に出る選手達、コーチの負担を減らすこと。 毎日乾いたウェアで海に出れるようにすること。捕食の準備や飲み物を十分に用意すること。 日本の子ども達がアウェイ感なく楽しく他国とコミュニケーションをとれるように、他国のコーチや父兄とも積極的なコミュニケーションをとり、サポートした。
海外の選手を見て感じたことは？	日本選手と同じように、小さい子は微風を喜び、大きい子は微風を嘆いていた。それでも身長165CMを優に超える選手たちが沢山活躍していたのが印象的だった。

日本の選手を見て感じたことは？	真面目に各自やることを一生懸命に取り組んでいた。 初めての海外遠征にもかかわらず、堂々としていてみんな立派だったと思う。食事もよく食べていた。雰囲気になれた後半は、初めての遠征かと疑うほどに、4人とも良い意味でリラックスしていた。今回のメンバーの今後の活躍がとても楽しみだ。
Spare day の過ごし方は？	今回はスペアデイがなかったので、レース後に街を散策した。 ホテルからの徒歩圏内に観光客相手の土産物屋などやレストランが並ぶので、とても便利だった。
日本チームとしての課題はありましたか	英語力とコミュニケーションスキルの向上と言いたいところだが、初めての遠征で、英単語もさほど知らない中で、立派にコミュニケーションがとれていた。
JODAへの要望	NT合宿の内容の充実
その他	とても良い経験、充実した時間を親子で経験することが出来ました。 ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会